

練習して「トルコ行進曲」を上手に弾きたい

第43回ピティナ・ピアノコンペティション
東北日本(青森)地区本選 デュオ部門
連弾初級A 第1位
全国決勝大会 デュオ部門
連弾初級A 入選

今村 日鞠 さん

いまむら・ひまり 7歳 平笠小1年



平成24年生まれ。姉の心晴さんが通う桜庭由美子ピアノ教室(大更地区)で4歳からレッスンを受け始め、昨年からピティナ・ピアノコンペティションに出場。休日に公園の遊具で遊ぶことが楽しみ。祖父母と両親、姉と弟の7人家族。

8月21日に東京オペラシティリサイタルホールで開かれたピティナ・ピアノコンペティション全国決勝大会のデュオ部門連弾初級A小学校2年生以下)に出場した今村日鞠さん。「人がたくさんいて緊張したけど、音の強弱に気を付けて弾けた」と初めてもらった盾と賞状を手に満足げな表情を浮かべた。

週に一度教室に通い、ピアノの指導を受ける。自宅では毎日、家族が見守る中、姉と共に練習を積み重ねている。同じ教室に通う好摩小2年の八重畑優杏さんとペアを組み、今年から連弾にも挑戦した。大会で演奏した曲は「きらきら星」と「インディアンの踊り」。2人は、曲が持つイメージを思い描きながら、ピアノで演奏する表現力を磨いてきた。



全国決勝大会で披露した曲を演奏する今村さん(前)と八重畑さん

選を通過。続く東北日本(青森)地区本選で第1位を獲得し、教室からは7年ぶりの決勝大会出場となった。全国の地区予選連弾初級Aには444組が出場し、決勝大会に進んだのは29組。入賞には届かなかったが、家族や指導に当たった桜庭先生、教室に通うみんなも驚くほどの快進撃だった。全国の舞台を経験し、次の目標は「先輩が弾いていたモーツァルトのトルコ行進曲を弾けるようになること」。次のステージに向けて、今村さんは気持ちを引き締め練習に励む。

編集後記

▽アーベイン・八幡平の布アート活動を取材しました。布が貼ってある場所をよく見ると、そこに貼るための布が用意されていたかのような仕上がり。実際は端切れなどを使っているの、色・柄を選ぶセンスが問われているのです。私も工作が好きなので家でやってみようと思いました。柄を選ぶセンスに問題がありそうです。芸術祭に出品しようとして途中にして眠らせている作品もあるし、それを先にやらなくと。

▽「地域ふれあい収穫祭」を取材。子どもたちや地域の皆さんの笑顔で、元氣もたくさんいただきました。ありがとうございました。

▽ゲームの交流イベント「G019サミット」を取材。最近、ゲームはしなくなりしましたが「ぶよぶよ」や「ウィニングイレブン」など、昔ハマったゲームが、いまだこうして盛り上がりを見せているのには懐かしさを感じました。今や通信で見知らぬ人と対戦することが当たり前ですが、こうしたイベントで顔を合わせて対戦、交流できるのは、やっぱり楽しいなと思いました。子どもたちは、これから待ちに待った冬休み。くれぐれもやり過ぎに注意し、家族で決めたルールを守って、楽しんでほしいです。サントさんもルールを守らない子には、ゲームのプレゼントはしてくれないですよ。ね!!?